



新学期が始まりました。各自目標を設定しましょう。!!

キャリア・パスポートについて

令和2年度よりキャリア・パスポートが導入されました。小学校から高校までのキャリア教育に関わる活動について、「学び」の過程を児童・生徒自身が記述し、蓄積した記録を振り返ることができるポートフォリオのようなものです。ポートフォリオとは、自分の経歴や能力を周囲に伝えるための作品や文書を指します。

キャリア教育とは、学校教育の中で、社会に出た際、自立するために必要な職業人としての能力を身に付けること、働くことの意義や職業観を学ぶことで、意欲的に仕事に取り組む姿勢を身に付け、自分の考える進路を主体的に選択・決定できるようにすることを目的としています。

このキャリア・パスポートは、中学校からの持ち上がりになるので、1年生は、後で担任に提出してもらいます。2・3年生は、昨年度末、1年間の振り返りをまとめました。自分の行動を顧み、自分の良さや実績などを再確認できればと思います。就職や進学の際に、志望理由や自己PRについての基礎資料にしてください。

○ 高い目標を設定し、それに到達する道筋をつくっていこう。

大きな目標を達成するためには、小さな目標の達成の積み重ねが大事です。高校生活の3年間の中では、目標を見失ってしまったり、努力した割には成果が上がらなかったため、やる気を失ったりする場面もありえます。そのようなことが無いように、大きな目標につながる小さな目標を達成することを心がけましょう。達成することで自分に自信が持てますし、自己肯定感や達成感を持つこともやる気を維持する上で大切です。

高い目標に到達するためには、「今自分の目指している大きな目標はどのくらい達成できているか」を言語化や数値化して表現しておくことです。例えば受験用の英単語・熟語を3年の夏休みまでに4500語を覚えようとし、2年の今の段階で2000語は理解しています。残りの2500語をこの1年でどのように覚えていくかといった計画を具体化して試みる必要があります。

○ 手帳を活用し、スケジュールの自己管理をはかろう。

各学年で購入した手帳の使い方で、1日の時間や週単位・月単位の計画を把握でき、時間の使い方が上手になります。朝や帰りのSHRで担任からの連絡事項や配布された行事予定を手帳に書き込むだけでなく、週や月ごとに予定を確認し、定期考査に向けての勉強計画や大会に向けてのコンディションづくりを考えてみましょう。最初はうまくいかないかもしれませんが、何回か繰り返す中で自分にあった勉強計画や調整方法が見つかります。また、担任の連絡事項を聞き、それをメモでまとめる。スケジュール表を確認しながら、時間を調整し自分のやりたいこと、できることを調整していく。こういったことは、社会に出れば必要になってくることで、高校生の時から手帳を使い慣れていれば、予定や時間の自己管理も効率よく行うことができます。

朝の読書について

担任や副担任の指示がなくても、チャイムが鳴ったならば、すぐに席について静かに読書を始めましょう。友人と話を続けていたり、席を立てて本をロッカーに取りに行ったりするなど周囲に迷惑をかける行動をとらないように各自注意しましょう。10分間という短い時間ですが、心を落ち着けて集中して読書をしましょう。1年間継続して本を読むことで、多くの新しい知識や考えを蓄えることができます。読書を楽しみましょう。

「ふくしま創生人財育成事業」について

本校では、昨年度に引き続き、県教育委員会から「ふくしま創生人財育成事業」の内定を受けました。この事業は、学校の特色に応じて地域との連携を図り、郷土理解を促進しながら、地域の様々な課題を解決するために必要な資質を養うことを目的としています。これにより、「高校生のためのSDGs推進講座（自然科学分野）」や「課題探究力養成講座」等を予定しています。

このような講座と並行して各学年では、「総合的な探究の時間」を活用して、地域探究活動も進めています。講演会や講座等で学んだことを上手に活用して、地域探究の内容を深めていってほしいものです。

地域探究活動では、グループで話し合い、お互いの意見を尊重しながら意見をまとめてあげていく協働性の場面も多くなってきます。有意義な意見交換ができるように自分の考えを深めていきましょう。また、探究活動の発表の場も設けるので、自分の考えを相手に上手に伝えるための表現力を養いましょう。

進学の際、高校での探究活動の成果を志望理由書等に記載しなければならない学校もあります。「ふくしま創生人財育成事業」や地域探究活動を通して、上級学校で研究してみたい分野を見つけましょう。

「ふくしま創生人財育成事業」にともなう主な講座・講演会

5月	農林業体験事前講話（1年）	8月	生徒向け小論文講習会（大学進学希望者）
5月	職場体験事前講話（2年）	9月	課題探究力養成講座（全学年）
6月	保護者向け進学ガイダンス	10月	職業観を養うための職業人講話（1年）
7月	高校生のためのSDGs推進講座（全学年）	2月	地域創生講話（2年）

志望理由書について

総合型選抜・学校推薦型選抜では、「志望理由書」が大事な提出書類になります。国公立大学や有名私立大学を目指すのであれば、A4サイズの両面を記載しなければならない場合もあります。当然ながらすぐには内容の濃い書類を書くことができないので、3年生になる春休みや1学期から準備を始めていきましょう。

内容も薄く、名前を変えたら他の人でも提出できる志望理由書、同じように学校名を変えたら他の学校にも提出できるような志望理由書では、合格を勝ち取ることはできません。

○ 志望理由書は、将来設計の計画書である。

志望理由書は、自分の夢ばかりを書くのでは

なく、進学先での学びと社会に出てからのキャリアデザインを書くものです。キャリアデザインとは、自分の経験や能力、性格などを考慮した上で、学びや仕事を通じて実現したい将来像やそれに近づく過程を明確にすることを意味しています。

自分の将来の構想を描き、学校でどのように学んでいこうとする目的意識を書き、目的意識を持ち続ける熱意を表現することが大切です。自分の経験を踏まえたり、学校の特徴やアドミッション・ポリシーを理解したりすることで具体性を文章化し、学校で学びたいことや進学先を卒業した後、目指したい事を周りの人と差別化することで独自性を出すことが求められます。

○ 志望理由書を書くことで、進路先について真剣に考えるようになる。

学校の教育方針や求めている生徒像などを調べていかないと志望理由書の内容を深めることができません。学校を詳しく知ることによって「合格できる学校」から「合格したい学校」に変わっていきます。自分の進路を真剣に考えることで、受験に対してのやる気を維持できます。また、学校を詳しく調べることによって学校入学後に“自分の思っているイメージと違う”といったミスマッチを防ぐことができ、有意義な学校生活を過ごせます。

○ 志望理由書を書くことで、目指す職業や資格についてよく調べるようになる。

志望理由書には、卒業後の未来像を書く部分があります。自分の将来像を考えるためにも、学校在学中に取得できる資格は何か、卒業後にどのような受験資格が取得できるか、卒業生はどういった企業に就職しているのかといった資格や就職の面でも進学希望先の学校を調べてみる必要があります。職業や資格を詳しく調べることで、自分の興味や関心と考えあわせることができ、より質の高い志望理由書ができ上がります。